「新しい契約」

ルカ 22:19-23

2020.12.13 南与力町教会

序.

本日から聖餐式を再開したいと願っていましたが、コロナウイルスの感染拡大のためそれができなくなってしまいました。残念ですが、今朝は御言葉を通して主イエスが聖餐式に込められた意味、その御心を心に刻みたいと願っています。

過越の食事においては、食事の席で家の主人が質問者に対して過越の食事の意味、すなわち出エジプトの出来事を説明することになっていました。しかしイエス様はその食事の席で、その食事(パンと杯)に新しい意味を付け加えられたのです。そうして過越の食事に代わる新しい食事として聖餐式を定められたのです。

１.「私たちのため」のキリストの体と血

まず 19 節には次のようにあります。

「それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

聖餐式の言葉はマルコ福音書やマタイ福音書にも記されていますが、少しずつ言葉遣いが異なっています。パンについてマルコでは「これはわたしの体である」となっています。それに対しルカでは「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である」となっており、「あなたがたのために与えられる」という言葉が付け加わっていることがわかります。また杯についても 20 節で「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である」と言われています。マルコやマタイでは「多くの人のために流されるわたしの血」となっています。「多くの人のために」という言葉がルカではより直接的に「あなたがたのために」と表現され、強調されていることがわかります。

「あなたがた」とは使徒たち、主イエスを信じる弟子たちのことです。ではキリストの体が「あなたがたのために与えられる」、キリストの血が「あなたがたのために流される」とは一体どういうことなのでしょうか。

ここでイザヤ書 53 章 4～6 節をお読みいたします。

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。」

このような意味でキリストの死は「私たちのため」であったのです。私たちの背き・咎・罪のために、キリストの体は刺し貫かれ、打ち砕かれ、懲らしめを受けました。そのことによって私たちには平和が与えられ、いやされたのです。

イエス様が「あなたがたのために」と言われた言葉は「あなたがたの代わりに」という意味もあります。

イエス様は私たちの代わりに、肉を裂き、血を流して死んでくださったのです。それはイザヤ書 53 章 10 節に次のようにある通りです。
「病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは／彼の手によって成し遂げられる。」
　イエス様はご自分の命、その体と血を「償いの献げ物」としてささげてくださいました。それは私たちの罪が赦され、清められ、神様の前に正しい者とされるためです。そのような意味でキリストの体は「私たちのために」与えられ、その血は「私たちのために」流されたのでした。

　ではなぜイエス様はご自分の体と血をパンと杯（ぶどう酒）になぞらえたのでしょうか。ヨハネによる福音書 6 章 48 節から 51 節には次のようにあります。
「わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」
　また 53 節から 55 節では次のように言われています。
「はっきり言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。」
　キリストの体は私たちに永遠の命を得させる命のパンです。もちろんキリスト者も一度は死にますが、やがて復活させられ、神の国に入って永遠に生きることができます。キリストの体と血は、私たちが永遠に生きることができるよう、私たちを養ってくださるそのようなパンであり、杯なのです。その意味でそれはイエス・キリストが「私たちのために」与えてくださったものです。

・聖餐式を守る目的
　そしてイエス様は聖餐式を守る目的として次のように言われました。19 節の最後
「わたしの記念としてこのように行いなさい。」
　「わたしの記念として」と訳されている言葉は、「わたしを思い起こすため」と訳すこともできます。旧約において定められた過越の食事は、出エジプトの出来事、その救いを記念し、思い起こすためのものでした。それと同じように聖餐式（主の晩餐）は、イエス様のことを私たちが思い起こし、記念するための食事です。イエス様が自ら体を裂き、私たちのために与えてくださったこと、私たちのために血を流して死んでくださったこと、そのことを私たちが繰り返し思い起こすために、聖餐式は定められたのです。私たち人間は忘れてしまいやすい生き物です。ですからイエス様の十字架の死が本当に「私たちのため」であったことを思い起こすことができるよう、イエス様は聖餐式を定められ、それを守り続けるよう命じられたのです。
　そして実際、初代教会の人々は「パンを裂く」ため、すなわち聖餐式を守るために集まったのです。教会は聖餐式を「ユーカリスト」と呼ぶようになりました。それはイエス様が「パンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き」と言われている中の、「感謝する」という言葉（ギリシャ語）に由来しています。キリストが私たちのためにご自分の体を与え、その血を流してくださった。聖餐式は私たちがそのこと

に感謝しつつ与る感謝の食事なのです。

２．キリストの血による新しい契約とそれに与る者の責任(20:20-23)

またイエス様は杯について 20 節で「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である」とおっしゃっています。この「新しい契約」とは、エレミヤ書 31 章 31 節から 34 節で語られているものです。

「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。」

神様はイスラエルをエジプトから救い出された後、シナイ山においてモーセを通してイスラエルと契約を結ばれました。そのとき、十戒を中心とする律法が与えられ、イスラエルの人々はそれを守りますと誓ったのでした。そしていけにえがささげられ、その血が祭壇とイスラエルに振りかけられ、神様とイスラエルとの契約が結ばれたのでした。しかしイスラエルはその神様との契約を破り、偶像を拝むようになりました。そして神様の怒りを招き、最終的にはバビロン捕囚が起こり、捕囚として連れて行かれてしまったのでした。しかし神様はそのようなイスラエルを見捨てることをなさらず、「新しい契約を結ぶ日が来る」と約束なさっていたのでした。そしてその新しい契約においては、石の板ではなく、彼らの胸の中、心の中に律法が記される。そうして律法を守って生きていくことができるように神様がしてくださるのです。さらに新しい契約においては「わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」と言われています。律法を破ってしまう私たちの罪と悪を神様が赦し、それをもはや心に留めない、それを忘れてくださる。新しい契約とはそのような罪の赦しを伴う恵みの契約です。

そしてイエス様は今、ご自分の血によって新しい契約が結ばれる、打ち立てられると宣言されたのです。聖餐式において私たちが杯に与ることは、イエス様の血によって立てられた新しい契約に与ること、その中に入れられることを意味しているのです。

・裏切りの予告

しかし 21 節以降、イエス様の言葉は次のように続いていきます。

「しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。人の子は、定められたとおり去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」

この言葉はそこにいた弟子たちにとってぞっとするような恐ろしい言葉だったでしょう。そして弟子たちは「自分たちのうち、いったいだれが、そんなことをしようとしているのかと互いに議論をし始めた」のです。

ルカの聖餐式の場面はこのように閉じられています。マタイやマルコでは裏切りの予告は聖餐式制定の前に置かれています。しかしルカではそれが後に置かれています。私たちはこのようなイエス様の裏

切りの予告をどのように捉えればよいのでしょうか。

イエス様はユダがご自分を裏切ろうとしていることをご存知でした。しかしイエス様はユダを食卓から事前に排除することをなさいませんでした。ユダも最後の晩餐にあずかったのです。しかしイエス様は「人の子を裏切るその者は不幸だ、災いだ」と嘆いておられます。その前のところでは「人の子は、定められたとおり去って行く」と言われています。イエス様は定められた通り、すなわち神様のご計画のとおり去っていきます。しかしだからと言って、イエス様を裏切る者、敵に引き渡す者の責任がなくなるわけではない。ユダのしたことが無罪になるわけではないのです。

パンと杯にあずかりさえすれば、自動的に救われるということではありません。杯はイエス様の血による「新しい契約」を表わしていますが、その新しい契約にあずかった者には責任が伴うのです。古い契約、シナイ山において結ばれた契約において、イスラエルの責任は神様から与えられた律法を守ることでした。一方、新しい契約にあずかる者の責任はイエス様への信仰にあります。ユダはイエス様への信仰を捨てて、敵に引き渡そうとしていました。それはイエス様の血によって立てられた新しい契約そのものを侮辱することに他なりません。そのような人は裁きと罰を免れないのです。それゆえそのような者は「不幸だ、災いだ」とイエス様は言われたのです。

結論

聖餐式は、私たちのために与えられたキリストの体にあずかることであり、私たちのために流されたイエス様の血による新しい契約にあずかることです。それは基本的に恵みの食事であり、感謝の食事です。しかしそれのあずかる者には同時に責任もあるのです。私たちに求められることはイエス様への信仰です。もちろん私たちは信仰の弱さ、小ささのゆえになお罪を犯すことがあります。ペトロもこの後、信仰の弱さのゆえに、イエス様を知らないと三度否んだのです。他の弟子たちも皆、イエス様を見捨てて逃げてしまいました。しかしイエス様はそういうペトロたちのことを「災いだ、不幸だ」とは今日のところで言っておられません。あくまで故意にイエスを裏切り、敵に引き渡したユダのことを「災いだ、不幸だ」と嘆いておられるのです。

私たちの信仰は弱く頼りないものです。しかしだからこそ、その信仰を強め、励まし、養うためにイエス様は聖餐式を制定し、与えてくださいました。それゆえ私たちはイエス様への感謝と信仰をもって聖餐式にあずかっていきたい、またその時を待ち望みたいと思います。